

乳房専用PETの有用性に関する研究

1. 研究の対象

2017年6月～2017年12月に当院で乳房専用PETの撮像検査を申し込まれた方

2. 研究目的・方法

近年乳がんの新たな画像診断装置として乳房専用PETが広まってきております。その背景として、すでに保険診療として採用されている従来の全身用PET装置では小さな乳がんに対する感度は低く、現存するマンモグラフィーや超音波、造影MRI等の検査モダリティにおいても小さな乳がんの存在を正確に診断するのは困難であるケースは多いです。したがってより高い感度で検査が可能とされる乳房専用PETへの期待度は高いと思われます。ただ、まだ臨床の現場で使用されて日が浅いため、臨床病理学的因子や他の画像と比較したデータは少ないのが現状です。乳房専用PETの有用性に関して病理学的検索結果の関連性に関して後方視的に検討致します。乳房専用PETを施行した上記の方を対象とし、各種の検査結果と各乳がんの病理学的因子（ER、PgR、HER2、Ki-67、nuclear grade(NG)、Intrinsic subtype、組織型、ly、v、T、N、Stage）等との相関性を後方視的に検討致します。

統計学的処理として χ^2 検定や平均値の比較検定などを行い、研究期間は平成31年3月31日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診療情報（検査結果報告、病理報告等）で個人を識別可能な情報は除く。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

埼玉県所沢市並木3丁目2番地

防衛医科大学校 外科学講座 学内講師 山崎 民大（研究責任者）

PHS 2356/5300

e-mail: yamasaki@ndmc.ac.jp